2023年度学校関係者評価

目標達成のため毎年重点目標を設定し、教職員による目標評価を行うとともに、学生による授業・学校生活、 実習、国家試験対策等のアンケート結果をもとにした自己評価を行っている。 以下2023年度の自己評価による学校関係者委員会の結果を報告する。

1.教職員による目標評価について

1)「受験者数の確保につとめる」 近隣校への訪問や進路相談会を13件、学校説明会を開催した。社会人入試からの社会人入学の割合は 15～20％で推移し新設前と比較し大きな変化はない。総受験者数は相対的に減少傾向で、受験者の大学志向や県内の医療系大学・専門学校の新設などもあり定員を満たすことはできていない。今後も受験者及び入学生確保は困難な状況が続くことが推測されるが、今年度もこれらの活動を継続するとともに、ブログの更新、ホームページの充実などSNSでの発信を増やし、コロナ禍で中止していた学校祭やオープンキャンパスなどのイベントを再開し社会人を含めたPRを行い受験者数の確保に努めたい。 2)「学生の教育充実と国家試験対策につとめる」国家試験対策は、 学生アンケートを実施し在校生への意識を高めることと、次の国家試験対策に活用している。 2022年度の国家試験合格率（現役生）は100％であり、目標評価の報告から、委員より学校の教育活動、学校運営について適切に行われていると評価された。

2.学生による授業・学校生活、実習、国家試験対策アンケート結果について

1）授業・学校生活アンケート結果 5 段階評価（3.5 未満を否定群とする） 学生自身の学習への取り組みは平均3.7、教員の授業の進め方については平均 3.8、学校 生活については平均 3.6 であり、否定群はなかった。国家試験に向け低学年より個別指導を行っており、学習への取り組み、国家試験への関心は１年次より高く、学年を追うごとにさらに高まる傾向がある。授業については、視覚教材や参加型学習が学生の記憶に残り 理解も深まっている。今後も授業研究を行い学生の学びにつながるよう工夫していく。2022 年はコロナの影響でオンラインを多く活用したが実技や修了試験の実施に遅れが出たため学生に負担をかけた。学校生活については、センシティブな学生が増える中、担任や級友の存在が助けとなっていることがわかる。またスクールカウンセラーのかかわりが不安の軽減につながっている。2）実習アンケート結果、学習環境や人間関係などが学生の学びに大きく影響している。今後も個別的な支援と、臨床と連携し実習環境の調整を継続していく。またすべての学生が実習での自己の成長を感じることができた。3）国家試験対策アンケート結果、振り返りで早い段階から計画的に取り組む必要性に気付いている。低学年から弱点克服に向けた個別指導を継続し学習を促すことが必要である。

各委員より、学生確保の現状と課題に対し検討を行い、今後の教育活動への支援と理解を頂いた。今後も本校の役割を認識し、教育の質を高め適切な学校運営に努めたい。